



環境調整により、起居・移動時間が短縮され、トイレ動作の獲得につながった症例

○平松 基宏（作業療法士）

株式会社 アール・ケア 訪問看護ステーション ママック岡山

【背景・目的】

今回、訪問リハビリテーション（以下、訪問リハ）において、パーキンソン病（以下PD）発症後に、指導を行ったことで歩行にてトイレまでの移動が可能となった症例を担当したので報告する。なお個人情報の保護を説明し、症例から書面にて同意を得た。

【事例紹介】

A氏・60歳代女性 Yahr4. 日常生活機能障害度2、要介護3、夫と二人暮らしで日中独居、移動支援や訪問リハ利用、X年前にPDと診断。X+3年内服疾患の治療中、歩行困難となり、終日Pトイレ使用。「トイレまで歩いて行けるようになりたい」の要望あり

【作業療法評価】

起き上がり一部介助、FIM：排泄4、排尿排便管理6、PD症状は軽度の動作緩慢・すくみ足・振戦。体幹・下肢のMMT3～4、両下肢の浮腫

【介入経過】

起き上がり・移動動作に時間を要し失禁があり。起き上がり動作改善に向け、動作指導及び反復練習を実施。移動動作改善に向け、トイレまでの動線にテープを貼り、歩幅の拡大を図った。さらに歩行器に貼紙し、姿勢改善の意識付けを行った。

【結果と考察】

起き上がり時間の短縮、歩行の歩幅が13 cmから22 cmへ改善し歩行スピードが向上、尿漏れすることなくトイレまで移動が可能となった。PDは外発的随意運動が障害されていない為、視覚的アプローチすることですくみ足が改善したと考えられる。